

学習や遊び相手に 子どもたち大喜び

石巻市中屋敷でボランティア

東京外大生有志50人支援

増えた笑顔 保護者らも感謝

◇ ◇
東京外国語大の学生有志らで組織する「外大東北復興支援隊」が吉村健吾隊長（外国語学部ホルトカド語学科3年）が石巻市中屋敷地区で子どもたち相手のボランティア活動を続けている。5月初旬から地区内にあるコミュニティスペースで小中学生に宿題や勉強を教える学習支援を行い、話し相手やゲームを通じた遊び相手になるなど心のケアにも貢献。子どもたちほもとより、保護者からも感謝されている。

◇ ◇
支援隊は福島県いわき市出身の吉村隊長の呼び掛けで発足。現在のメンバーは東北出身の約30人を含む50人。

3人から6人が1チームとなり、交代で平均4、5日間滞在。7月下旬からの夏休み中、1時

1日20人が訪れ、小中学生に宿題や勉強の仕方などを的確にアドバイスし、みるみる小学生や、

と語る母親もあり、予想以上の反響に吉村隊長らも喜んでいる。
勉強の合間にはトランプやカルタ、ウノといったゲームやボール遊び、スイカ割りなどで楽しいひとときを過ごし、コミュニティスペースは和やかな雰囲気になった。10回以上現地入りしている吉村隊長は「当初は子どもたちの笑顔が少なかった」と震災の影響の大きさを振り返る。それでも親しくなると、子どもたちの笑顔も増え、お兄ちゃん、お姉ちゃん感覚で接してくれるようになった」と感想を語る。

「子どもたちへの支援はまだ必要。11月ごろまで活動を続け、その後は地元の大學生らにバトンタッチしたい」と意欲を燃やしている。



小学生と一緒にゲームを楽しむ東京外語大の女子学生3人
—石巻市中屋敷